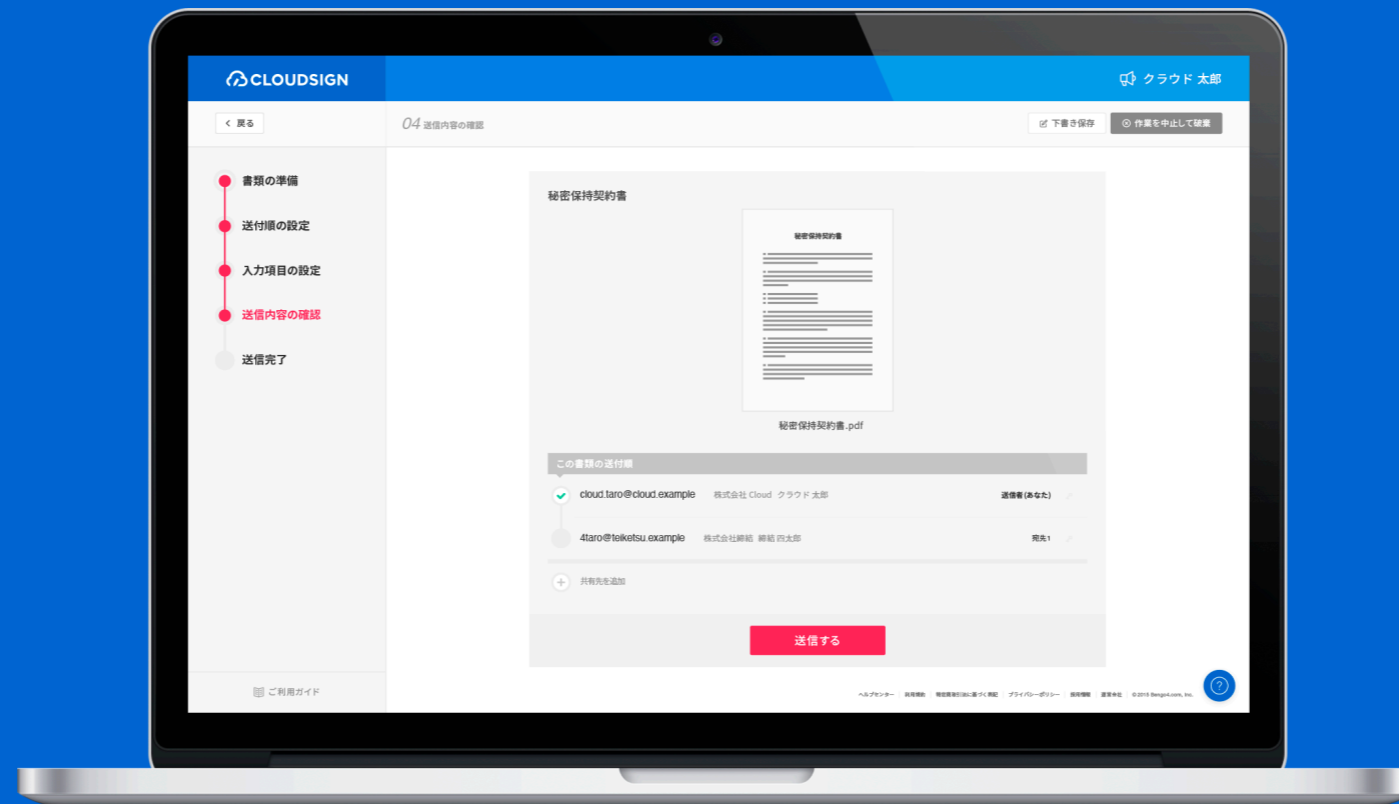




受信者向け クラウドサイン利用ガイド



1. クラウドサインとは

弁護士ドットコム監修

契約締結から契約書管理まで可能な クラウド型の電子契約サービス

契約交渉済の契約書をアップロードし、相手方が承認するだけで契約を結ぶことができます。
書類の受信者はクラウドサインに登録する必要がありません。



シェアNo.1の電子契約サービス「クラウドサイン」



導入社数 **250万社超**

国内でNo.1の利用実績/認知度があり
貴社のみならずお取引先様も安心安全
にご利用頂けるサービスです

TOYOTA

Nestlé. Good food, Good life

NOMURA

東京海上日動

RECRUIT

mercari

累計送信件数 **1000万件超**



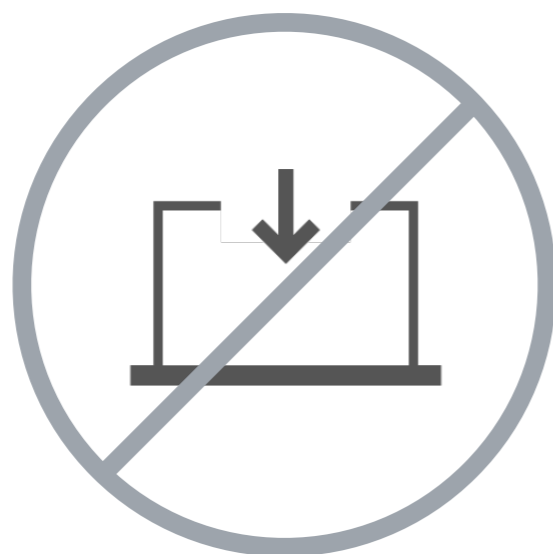
※1:株式会社富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場2023年版」(電子契約ツール、2022年度実績)

※2:株式会社マクロミル(委託調査)、電子契約サービスを利用している20~59歳の男女1,034名を対象にインターネット調査を実施(調査期間:2024年1月26日~1月28日)

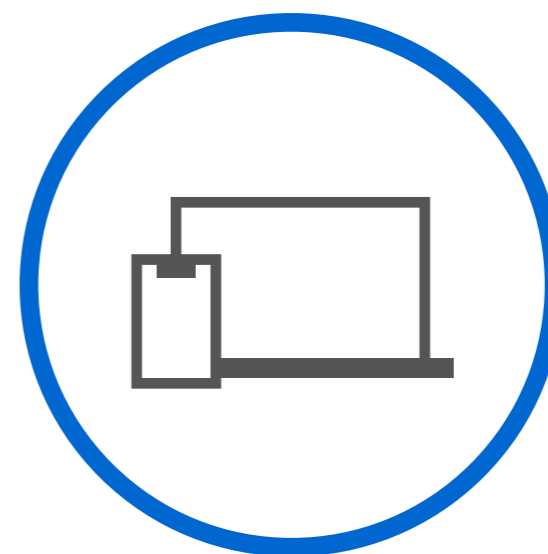
※3:全国の自治体が公開している公募・入札・プロポーザル情報から有償契約後導入が決定している自治体数を自社調査で比較。2024年2月29日時点調べ。

特別な準備は一切必要ありません

メールアドレスで認証し、**今すぐご利用いただけます。**



設定やインストール等は不要



お手持ちのPC
スマートフォンだけでOK

契約締結は3ステップで完了

届いたメールからPDFの書類を開封し、ボタンひとつで契約を結ぶことができます。
受信者はクラウドサインに登録する必要はありません。

STEP
01



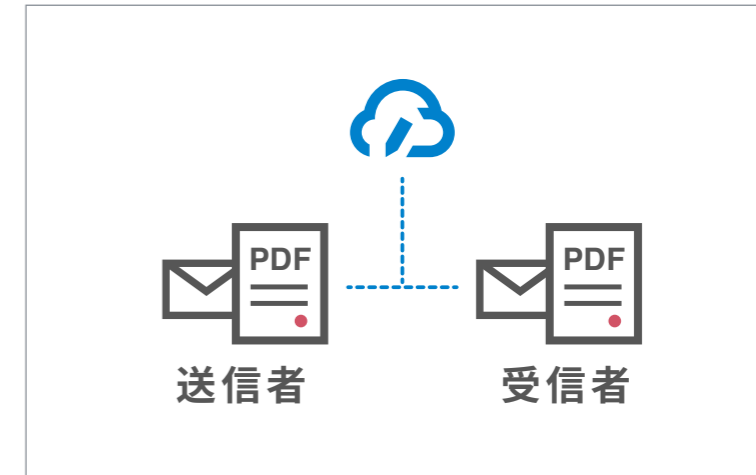
メールで受信

STEP
02



契約書確認・合意

STEP
03



締結後書類を印刷・PDFで保管

締結フロー

PCで契約締結する場合

STEP01-1. クラウドサインから届いた「確認依頼」メールに記載されたリンクをクリックします。



メールに記載されたリンク（上図赤枠内）をクリックすることで、書類確認の画面を開くことができます。

タイトル例：サイン次郎様（株式会社クラウドサイン）から「秘密保持契約書」の確認依頼が届いています。

※古いバージョンのウェブブラウザを利用されている場合には、クラウドサイン上で書類の内容を閲覧できない場合がございます。その場合、受信メール記載の「簡易表示版」のリンクをクリックしてください。簡易表示版の場合、PDFをダウンロードして確認することになりますが、同意して確認の意思表示を行うことができます。なお簡易表示版では、送信者が書類に押印機能、フリーテキスト機能を利用している場合には「同意する」ことできません。その場合は、その旨を送信者にご連絡いただき、同機能を使わずに再送していただく必要がございます。

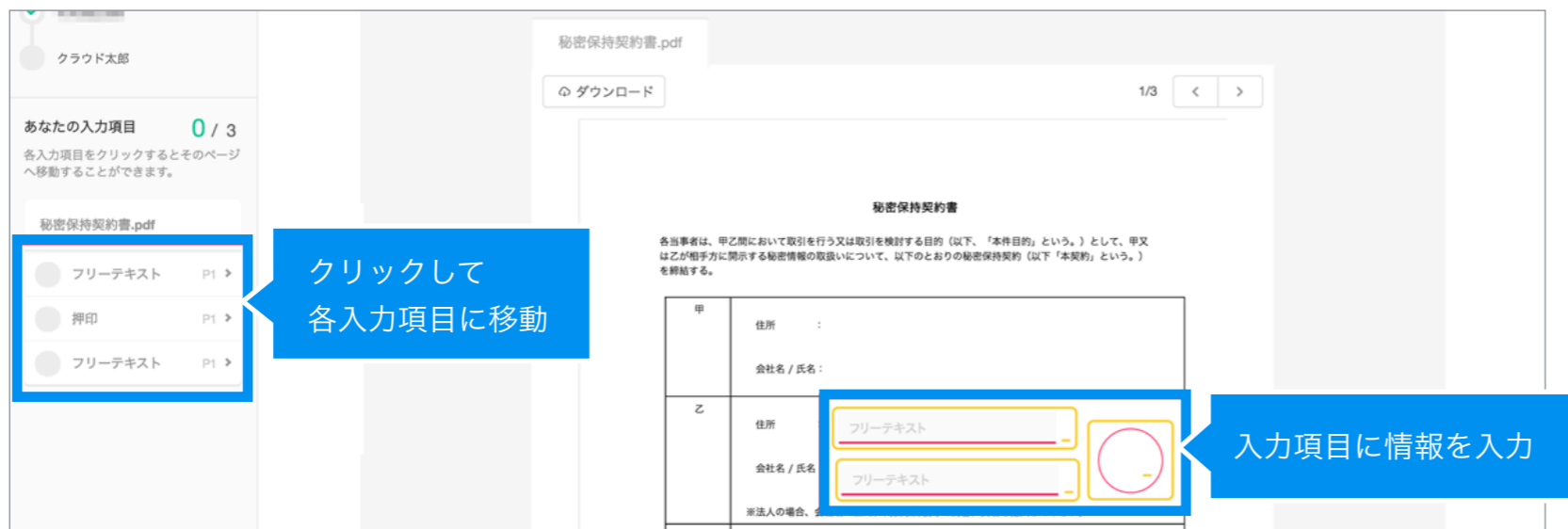
※メールの受信箱に届かない場合には、お使いの環境によって、迷惑メールフォルダに保管されている場合がございますので、ご確認ください。

STEP01-2. 利用規約(<https://www.cloudsign.jp/tos>)を確認し、「利用規約に同意して確認」ボタンをクリックします。

※送信者がファイルを開くために必要な「アクセスコード」が設定されている場合がございます。この場合、送信者から別途SMS、ビジネスチャット、電話などで通知されたアクセスコードを入力してください。アクセスコードが不明な場合は、書類の送信者にお問い合わせください。

STEP02-1. 契約書の内容を確認し、入力項目をクリックして入力項目に必要な内容を入力します。

※入力項目が設定されていない場合もあります。設定されている場合のみ入力項目に必要な内容を入力してください。



送信者から入力項目を指定されている場合には「フリーテキスト」欄または「押印」欄をクリックし、必要な内容を入力してください。フリーテキスト欄や押印欄は送信者により任意で設定され、これらの項目無しで送付される場合もございます。

※本サービスでは、合意締結そのものは双方が「同意」ボタンを押下することによって形成され、押印は一般の商慣習に合わせた擬似的なものです。

STEP02-2. 同意ボタンをクリックし、合意締結を完了します



「書類の内容に同意」ボタンをクリックします。

さらにポップアップにて確認画面が出ますので「同意して確認完了」ボタンをクリックします。

この時点で合意締結が完了し、書類に改竄不可能な電子署名の処理が施されます。

STEP03. 締結完了後に届く「締結完了メール」からクラウドサインにアクセスして、電子署名が施された締結済み文書のPDFファイルを保存します。

<締結完了メールへのPDFが添付あり>



<締結完了メールへのPDFが添付なし>



書類を確認する場合、メールの「書類を確認する」からクラウドサイン上で確認・ダウンロード可能です。
なお、送信者側の設定によって、PDFファイルが添付される場合と、添付されない場合があります。（参照：[締結完了メールへのPDFファイル添付設定機能](#)）
添付される場合、添付されない場合の詳細は、事項をご確認ください。

<締結完了メールにPDFが添付されていない場合>

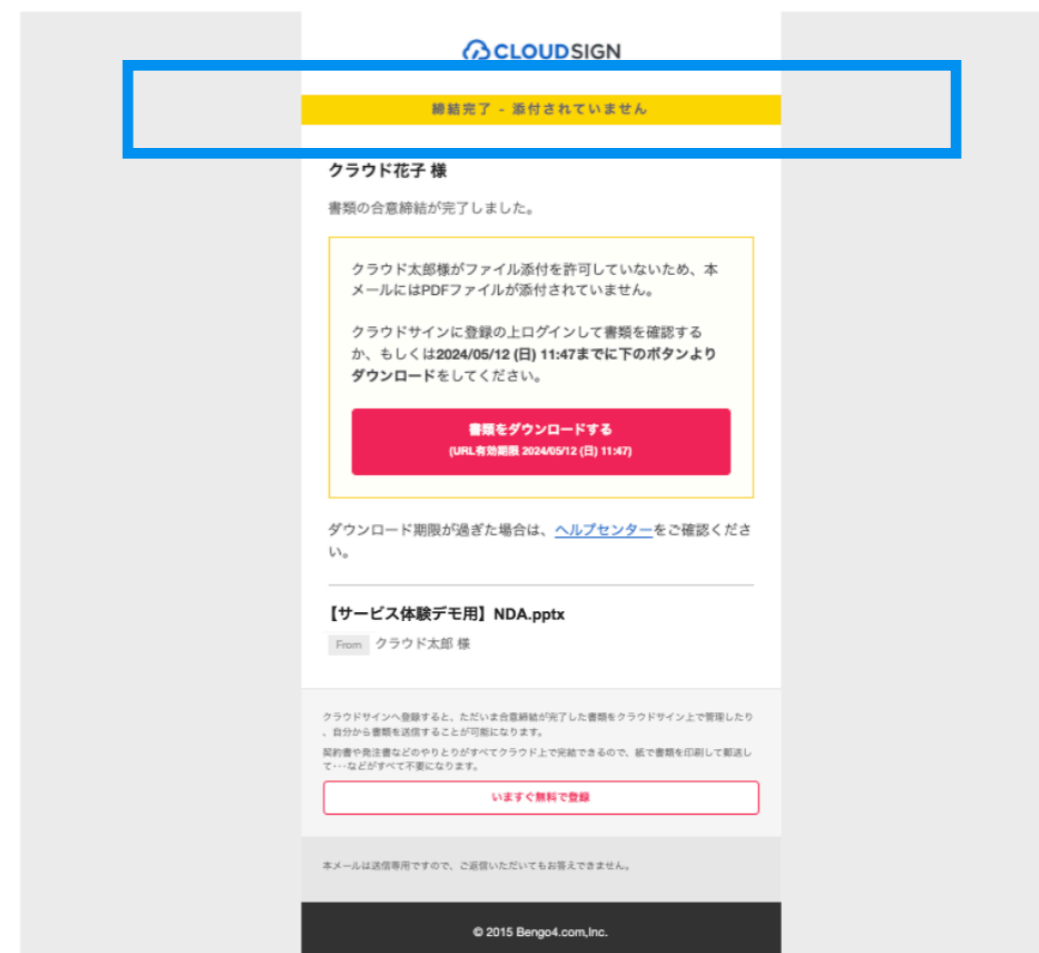
送信者側の設定によって、PDFファイルは添付されていません。

書類を確認する場合、締結完了メール内URLの期限内であれば「書類を確認する」からクラウドサイン上で確認・ダウンロード可能です。なお、アカウント未登録で有効期限を過ぎてしまった場合は、アカウント登録いただければクラウドサイン上でも確認・ダウンロードができます。

<アカウントをお持ちの場合>



<アカウントをお持ちでない場合>



送信者側の設定によって、PDFファイルが添付されていない注意書き

＜締結完了メールにPDFが添付されている場合＞

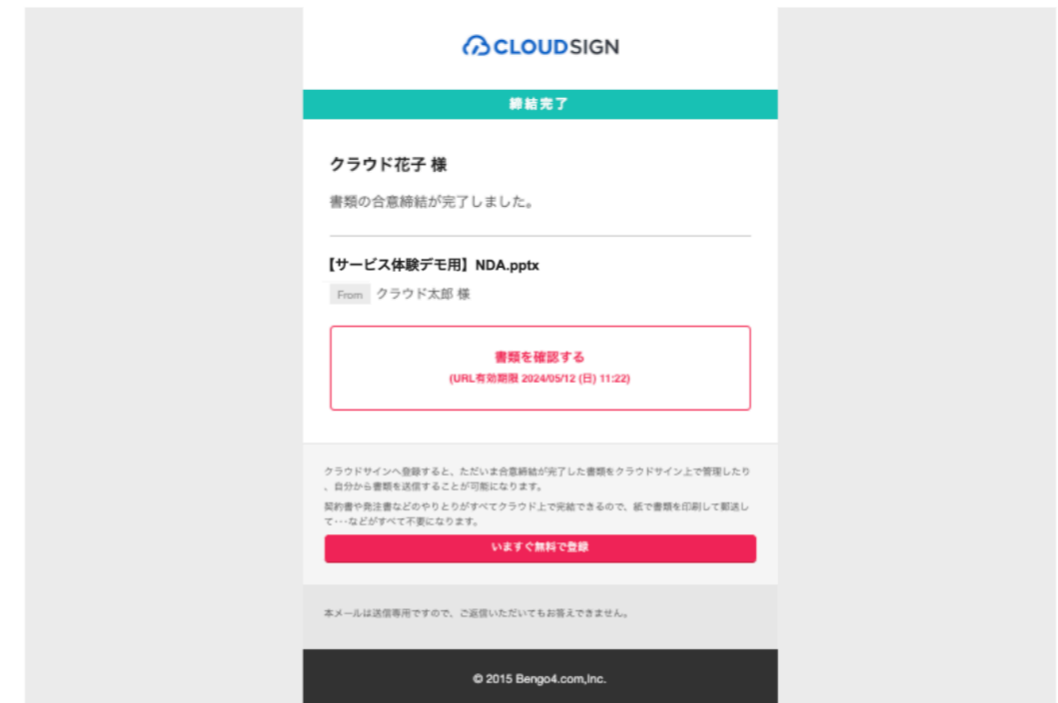
送信者側の設定によって、PDFファイルが添付されています。

書類を確認する場合、添付されたPDFをダウンロードして確認するか、締結完了メール内URLの期限内であればクラウドサイン上でも確認・ダウンロード可能です。

なお、アカウント未登録で有効期限を過ぎてしまった場合は、アカウント登録いただければクラウドサイン上でも確認・ダウンロードができます。

＜アカウントをお持ちの場合＞

＜アカウントをお持ちでない場合＞



合意締結済みのPDFファイル（電子署名入り）



締結フロー

電子署名の確認方法

クラウドサインでは、本人の同一性の確認・書類に改ざんがないことを証明することができ、合意締結された書類は十分な証拠力を有します。

受信者の特定・認証

クラウドサインでは、送信者が書類を送ると、受信者のメールアドレス宛に、書類を閲覧・確認するためのユニークURLを都度発行いたします。このURLに悪意を持った第三者が不正にアクセスするためには、1秒間に1億回ランダムなURLを作成してアクセスを試みても、宇宙の寿命より長い期間が必要です。従って、このURLをクリックできるのはメールアドレスの保持者のみであり、これにより本人を特定しています。

また、万が一クラウドサインからのメールそのものが流出してしまった場合でも、送信者は、受信者が書類を開くためのアクセスコード（パスワード）を予め設定することができ、それを別途受信者に連絡しておくことで、当事者外による書類の閲覧を防ぐことができます。

双方の合意の意思表示の証明

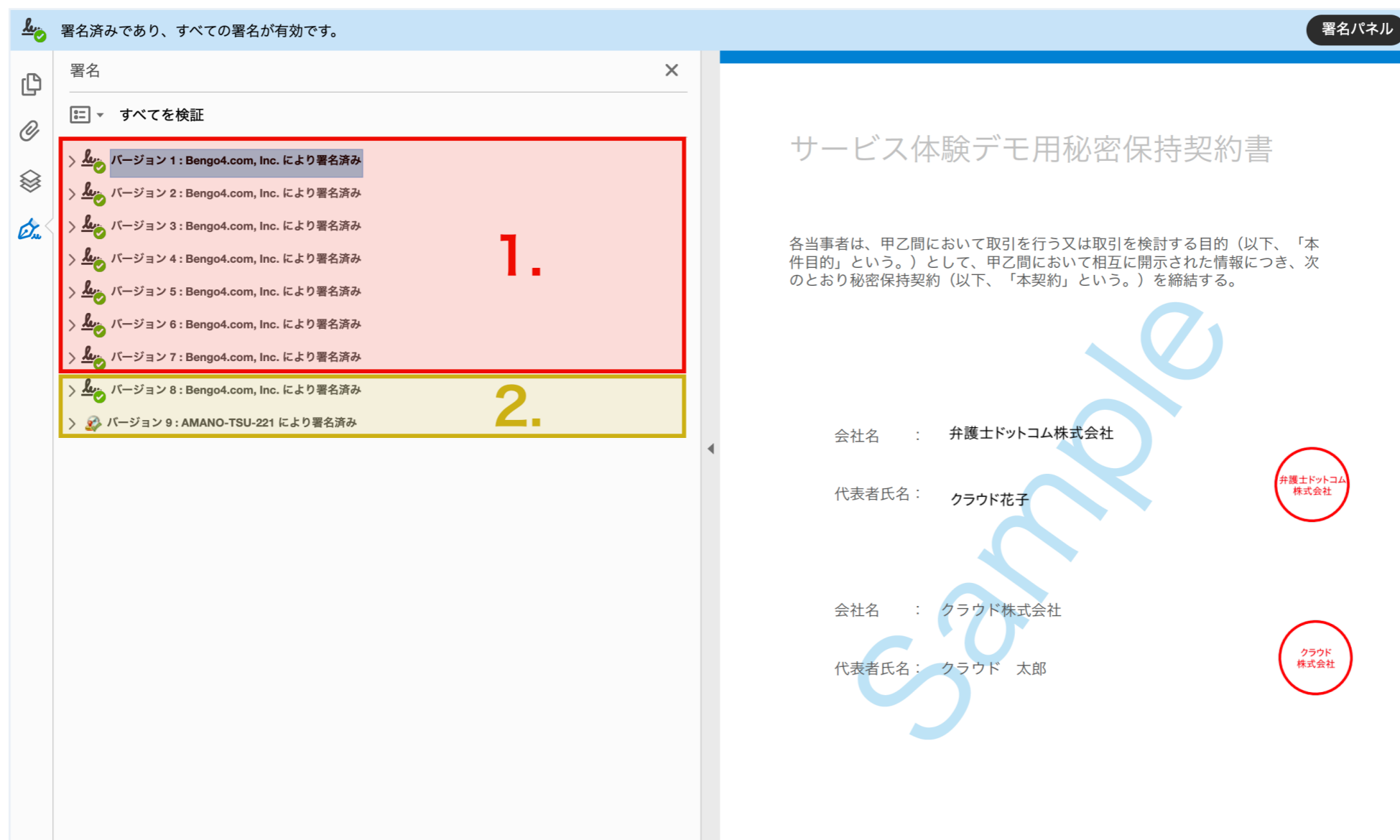
クラウドサインでは、送信者が送ったPDFファイルに対して受信者が確認・同意することにより、合意締結が成立します。（確認完了済みのPDFファイルに、弁護士ドットコム株式会社が相互同意を示す改ざん不可能な電子署名を付与いたします）。

書類に対する改竄防止

クラウドサインで合意締結されたすべての書類には、クラウドサインのみが発行可能な電子署名が付与されますので、それにより真正な書類を判別することができます。電子署名の仕組みには、強固な暗号化方式によって守られている公開鍵暗号方式に基づくデジタル署名を採用しています。

Adobe Acrobat Readerで締結済み書類を開き、右上「署名パネル」をクリックすると、画面左側に「電子署名パネル」が表示されます
ここから付与されている電子署名とタイムスタンプの詳細を確認できます
赤枠部分（1）が電子署名、黄色枠部分（2）がタイムスタンプです

※書類の入力項目の設定数・受信者の数などによって付与される電子署名の数も異なるため、書類ごとにバージョンの数も異なります
今回は送信者→受信者A→受信者Bの順で書類を確認したケースです



書類に対し「誰が（メールアドレス）」「いつ（日時）」合意締結を行なったのか、また合意締結にあたっての認証方法を「署名の詳細」>「理由」にて確認することができます

※不可視署名のため、右側に表示される書類上では確認ができず、電子署名パネルからのみ確認可能です

※今回の場合、受信者Aの電子署名がバージョン3、受信者Bの電子署名がバージョン4に表示されます

The screenshot displays the CloudSign interface for a document titled "サービス体験デモ用秘密保持契約書". The left sidebar shows a list of signatures, with "バージョン 2: Bengo4.com, Inc. により署名済み" highlighted in red. Below this, the "署名の詳細" (Signature Details) section is expanded, showing the reason: "理由: クラウド太郎() (Eメール認証) によって 2022-06-14 22:38:34.919423028 +0900 JS". A yellow arrow points from this reason text to the signature panel on the right. The signature panel, titled "署名パネル", shows the document content with two signatures: "弁護士ドットコム株式会社" (represented by a red circular stamp) and "クラウド株式会社" (represented by a red square stamp with a yellow border). The document text includes: "各当事者は、甲乙間において取引を行う又は取引を検討する目的（以下、「本件目的」という。）として、甲乙間において相互に開示された情報につき、次のとおり秘密保持契約（以下、「本契約」という。）を締結する。", "会社名 : 弁護士ドットコム株式会社", "代表者氏名 : クラウド花子", "会社名 : クラウド株式会社", and "代表者氏名 : クラウド 太郎".

<https://help.cloudsign.jp/ja/articles/2684919>

タイムスタンプ付き電子署名（PAdES-T）が施されたことを確認可能です（最後から2番目のバージョンに固定表示）

※不可視署名のため、右側に表示される書類上では確認ができず、電子署名パネルからのみ確認可能です

The screenshot illustrates the process of verifying a timestamped electronic signature (PAdES-T) in the CloudSign interface. On the left, the '署名' (Signatures) panel shows a list of signature versions for 'Bengo4.com, Inc.', with the 8th version selected and highlighted in red. Below the list, the status '署名は有効です' (Signature is valid) is shown, along with details such as '信頼ソース取得元: Adobe Approved Trust List (AATL)', '署名者の ID は有効です', and a red box highlighting the text '埋め込みタイムスタンプが署名に含まれています。' (Embedded timestamp is included in the signature). The '署名の詳細' (Signature details) section is also highlighted in red, showing the certificate details and the final check date: '最終チェック日時: 2022.07.07 18:21:21 +09'00'.

An arrow points from the signature list to the '証明書ビューア' (Certificate Viewer) on the right. The viewer displays the certificate details for 'Cybertrust iTrust Root' and 'Cybertrust iTrust S'. A yellow box highlights the '有効期間の終了' (Valid until) field, which is '2025/02/19 11:28:00 +09'00'. Below the viewer, a yellow arrow points to the text 'タイムスタンプが付与された日時はこちら' (The timestamp is here), and a yellow box highlights the information: 'パスの検証および失効確認は、保証された (タイムスタンプ) 時刻に行われました: 2022/06/14 22:39:43 +09'00' (Validation and revocation check was performed at the guaranteed (timestamp) time: 2022/06/14 22:39:43 +09'00').

<https://help.cloudsign.jp/ja/articles/2684919>

文書タイムスタンプが施されたことを確認可能です（一番最後のバージョンに固定表示）

文書タイムスタンプが施された日時は「署名の詳細」>「証明書の詳細」にて確認できます

※不可視署名のため、右側に表示される書類上では確認ができず、電子署名パネルからのみ確認可能です

署名済みであり、すべての署名が有効です。

署名

すべてを検証

- バージョン 1: Bengo4.com, Inc. により署名済み
- バージョン 2: Bengo4.com, Inc. により署名済み
- バージョン 3: Bengo4.com, Inc. により署名済み
- バージョン 4: Bengo4.com, Inc. により署名済み
- バージョン 5: Bengo4.com, Inc. により署名済み
- バージョン 6: Bengo4.com, Inc. により署名済み
- バージョン 7: Bengo4.com, Inc. により署名済み
- バージョン 8: Bengo4.com, Inc. により署名済み
- バージョン 9: AMANO-TSU-221 により署名済み**

署名は有効です：
信頼ソース取得元：Adobe Approved Trust List (AATL)
文書は、この署名が適用されてから変更されていません
署名者の ID は有効です
署名はドキュメントタイムスタンプ署名です。
署名は LTV 対応です

署名の詳細

証明書の詳細...

最終チェック日時：2022.07.07 18:21:21 +09'00'
フィールド：Signature2 (不可視署名)
[このバージョンを表示](#)

証明書ビューア

このダイアログボックスを使用して、証明書およびその発行チェーン全体の詳細を表示できます。表示される詳細は、選択したエントリに対応しています。

見つかったすべての証明書を表示

Security Communicat
SECOM TimeStam
AMANO-TSU-2

概要 詳細 失効 信頼 ポリシー 法律上の注意事項

AMANO-TSU-221
e-timing TSA, Thales TSS
発行者：SECOM TimeStamping CA3
SECOM Trust Systems CO.,LTD.
有効期間の開始：2021/09/29 11:36:02 +09'00'
有効期間の終了：2032/10/29 11:36:02 +09'00'
鍵の使用方法：デジタル署名、タイムスタンプ

↑有効期限はこちら

属性：
書き出し...
属性の詳細...

↓タイムスタンプが付与された日時はこちら

選択した証明書パスは有効です。

パスの検証および失効確認は、保証された (タイムスタンプ) 時刻に行われました：
2022/06/14 22:39:44 +09'00'
検証モデル：シェル

OK

<https://help.cloudsign.jp/ja/articles/2684919>

署名検証機能

クラウドサインで合意締結した書類が改ざんされていないことを確認できる機能です。
Adobe Acrobat Reader 等のPDFリーダーでのみ確認可能であった
電子署名やタイムスタンプ及びそれらの署名時の証明書情報をクラウドサインでも確認できます。

署名情報

署名検証結果

この書類は署名されており、すべての署名が有効です。
最終確認日時: 2023.06.30 20:59:17 +09:00

秘密保持契約書.pdf

バージョン1: Bengo4.com, Inc. により署名済み
DocID:01ffv01f8ypqe0x1xdsejnk5f2f7eq

バージョン2: Bengo4.com, Inc. により署名済み
クラウド太郎(cloud.taro@cloud.example)(Eメール認証)によって2023-06-30 17:37:04.183782244 +09:00 JSTに作成されました。

バージョン3: Bengo4.com, Inc. により署名済み
クラウド花子(cloud.hanako@cloud.example)(Eメール認証)によって2023-06-30 18:07:33.016358305 +09:00 JSTに押印/入力されました。

バージョン4: Bengo4.com, Inc. により署名済み
クラウド花子(cloud.hanako@cloud.example)(Eメール認証)によって2023-06-30 18:07:33.016358305 +09:00 JSTに押印/入力されました。

バージョン5: Bengo4.com, Inc. により署名済み
クラウド花子(cloud.hanako@cloud.example)(Eメール認証)によって2023-06-30 18:07:33.016358305 +09:00 JSTに承認されました。

バージョン6: Bengo4.com, Inc. により署名済み

バージョン7: AMANO-TSU-321 により署名済み

書類に含まれる署名の一覧

※詳細は[こちら](#)のページをご覧ください

書類の転送機能

受信した書類は他の決裁権限者に転送することが可能です。

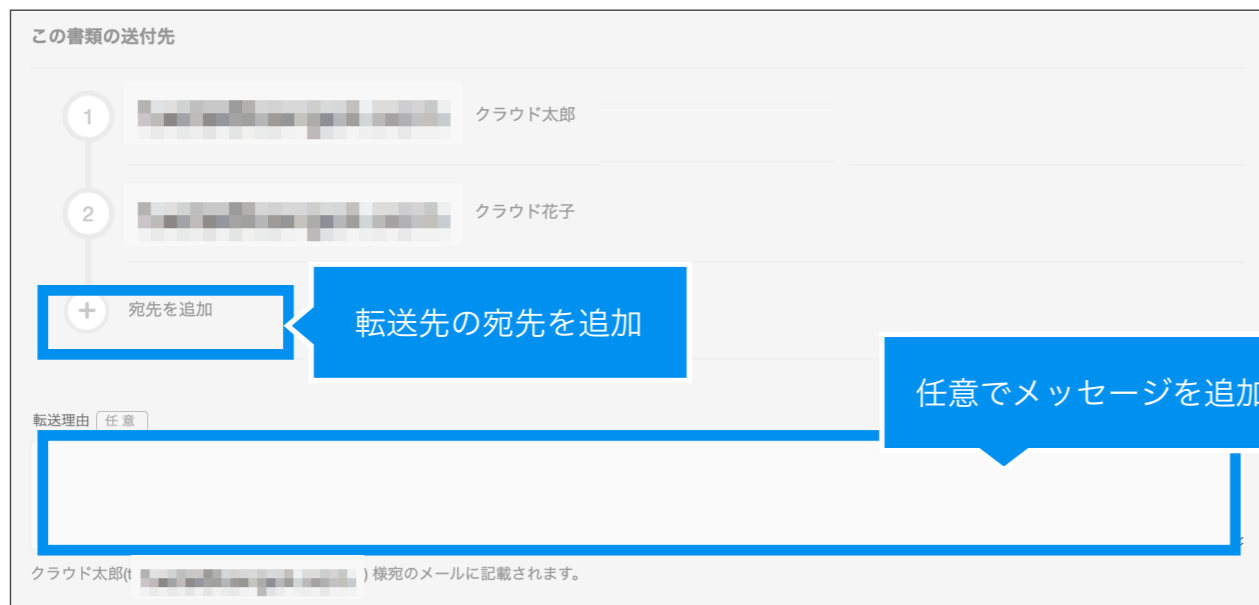
例えば、書類を受信したが自分に決裁権限がない場合、社内の決裁権限者に転送、適切な権限者が同意することで、法的な有効性を担保することができます。



1. 契約書のURLにアクセスした後、右上の転送機能をクリックします。



2. 転送先の宛先・メッセージ (任意) を追加します。



クリックして次へ進む

3. 宛先追加完了後、転送するボタンをクリックして転送完了です。

書類の転送

「契約四太郎」を宛先に追加しました

この書類の送付先

- 1 [redacted] クラウド太郎 株式会社クラウドサイン
- 2 [redacted] クラウド花子
- 3 転送 [redacted] 契約四太郎 編集する 削除

転送理由 任意

[Redacted text area]

クラウド太郎([redacted]) 様宛のメールに記載されます。

キャンセル 転送する クリックして次へ進む

転送先にクラウドサインからメールが届きます。

転送先の方が同意ボタンをクリックすると契約締結となり、電子署名が処理されたPDFが当事者のメールに添付され届きます。

ISO27001、SOC2やISMAPなど50以上のセキュリティチェック項目をクリアした
万全のセキュリティで大切な契約書データを守ります。

海外にデータセンターを置く企業が多い中で、クラウドサインはデータセンターは日本国内に設置されており、
セキュリティに対する要求水準が高い金融機関や自治体などのお客様にもご利用いただいています。

第三者評価・認証制度

- **ISMAP（政府情報システムのセキュリティ評価制度）**

政府が求めるセキュリティ要求を満たしているサービスであると認定され、ISMAPクラウドサービスリストに登録

- **LGWAN-ASP（総合行政ネットワーク）**

地方自治体のセキュリティポリシーに則した環境の構築

- **ISMS認証 ISO/IEC27001**

情報セキュリティマネジメントシステムを当社にて取得済み

- **SOC2 type1 認証**

米国公認会計士協会が定めたサービス内部統制の評価結果を受領

※セキュリティについての詳細は下記資料で解説しています。

- セキュリティガイド
- セキュリティホワイトペーパー

セキュリティ基準が高い機関への導入実績

三井住友銀行株式会社

トヨタ自動車株式会社

日本郵政株式会社

茨城県庁

独立行政法人 宇宙科学研究所

etc

Q. 紙でなく電子で本当に問題ないの？

A. 契約の方式は自由であり、電子文書による契約も適法です。

原則：契約方式の自由

契約締結の方式は、原則として自由とされています。

書面でなくとも、口頭、eメールのような方式のほか、電子文書によりクラウド上で契約を締結することも可能であり、クラウドサインによる契約締結も当然適法なものです。

なお、この契約方式の原則は、2017年に成立した改正民法にも明記されています。

Q. クラウドサインにおける証拠力担保の方法は？

A. クラウドサインはお客様・取引先様に代わり弁護士ドットコム株式会社名義で電子署名を施す、新しい方式を採用しています。弊社が代わって電子署名を施すため、お客様・取引先様は電子証明書の取得が不要です。

加えて認定タイムスタンプを付与しているため、「誰が」「何を」「いつ」を長期的に証明することが可能です。

Q. 本人性をどのように確認するのか？

A. クラウドサインは契約相手の本人性の証明を容易にするために、メールアドレス認証（※1）を基本としております。

これに加えてパスワード認証（※2）もご利用いただけます。

※1 メール到着確認による本人認証方法

※2 書類の送信者が任意のパスワードを設定し、受信者が契約内容を確認する前にパスワードの入力を求める本人認証方法

Q. 電子データの捏造や改竄への対策は？

A. クラウドサインで締結されたすべての書類には、クラウドサインのみが発行可能な電子署名が付与されますので、それにより真正な書類を判別することが出来ます。

Q. なぜクラウドサインは印紙税が不要なのか？

A. 印紙税は紙で契約締結した場合にのみ発生するものであり、電子契約で締結した場合には、印紙税発生いたしません。（印紙税法2条）国税庁のウェブサイトでも「電磁的記録」により契約締結した場合には印紙税が発生しない旨が明確化されています。

※国税庁「請負契約に係る注文請書を電磁的記録に変換して電子メールで送信した場合の印紙税の課税関係について」

https://www.nta.go.jp/about/organization/fukuoka/bunshokaito/inshi_sonota/081024/01.htm

Q. 決裁権限者が送受信しない対応は？

A. 決裁権限者が送受信を行わない場合、代替案として以下の方法をご検討ください。なおこの場合、社内規定において、電子署名による契約を署名代理により行う旨を規定しておくことを推奨いたします。

①別途社内で決裁権限者の承認を得た上、署名代理し、使者として送受信を行う

②決裁権限がある者を送受信宛先を含める

決裁権限がある者に締結した書類を転送/共有する機能も提供しています。

Q. 無権代理リスクの対応は？


A. 決裁権限者自身がクラウド契約の送受信を行うことを推奨しています。文書に押印があってもその押印が権限のない者による押印だった場合にはその文書の真正な成立が認められないのと同様、決裁権限者以外の者が、権限者からの委任/承認なく会社を代理してクラウド上で契約締結した場合、無権代理を主張され、契約が無効となるリスクが生じます。

このリスクを最小化するために、押印における原則と同様、契約締結名義者および権限者自身により、送受信の作業を行っていただくことを推奨いたします。

気になることがあれば、チャットからお気軽にお問合せください



お問い合わせ方法

1. <https://www.cloudsign.jp> にアクセス
2. 右下にある青い  マークをクリック
3. 「チャット」よりお気軽にお声がけください。随時お返事いたします。